

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.233 2021.3.1



開館風景

常設展示室(平成19年頃)



企画展「秦の始皇帝と兵馬俑」



松本市立博物館外観



年中行事シリーズ・繭玉サービス

感謝!
この地で約半世紀一。

松本市立博物館は、今年3月末をもって休館し、令和5年(2023)秋、大名町通り沿いにリニューアルオープンします。場所は変わりますが、これまでのように、そして、これまで以上に、みなさまとともに歩み続けたいというおもいは変わりません。新しい博物館でまたお会いしましょう。



松本市博物館の日制定記念式典

もくじ

誌上博物館	◇ 明治期の山辺学校校舎の姿を追うー竣工時には洋風腰壁があった?ー	2
博物館のノートから	◇ 御柱展を終えて～令和3年の御柱～	3
博物館TOPICS	◇ 『松本の子どもの短歌・2020』	3
ガイドコーナー	◇ はんでんぼく	4

新型コロナウイルスの影響により、令和2年度に予定していた博物館事業に大きく変更が生じる見通しとなっております。予定の変更については、随時、まるごと博物館ホームページ等でご案内いたします。詳細は、各担当館へお問い合わせください。

明治期の山辺学校校舎の姿を追う

－竣工時には洋風腰壁があった？－

1 はじめに

松本市里山辺にある長野県宝旧山辺学校校舎は、明治に開校した学校です。白漆喰の壁と黒い瓦屋根に派手さは無いものの、八角塔が印象的な和洋折衷校舎です。現在、校舎の北側にだけなまこ壁風の腰壁があります。建設費用削減のため正面玄関側にだけ施されたかと考えられましたが、明治、大正時代の旧山辺学校は現在の校舎と違う姿であったことがわかってきました。

2 設計当時は石目模様の腰壁

校舎は明治17年(1884)、地元大工棟梁の佐々木喜重により和洋折衷で設計されました。佐々木は開智学校の建設にも携わっており、設計には開智学校の影響を受けたと考えられています。仕様書には腰壁について、「鼠色煉瓦風に石目をつけ」と書かれています。開智学校の石積み風模様の腰壁と同じ、洋の要素を取り入れたのです。

3 昭和の校舎復原工事

昭和3年(1928)に校舎は役場庁舎に転用されます。保全と利便性を重視し、外壁は全て板張りへと改修されました。竣工当初の姿に復原されることとなるのは昭和56年です。この際、腰壁の石目模様は写真を元に施工図が引かれませんが、校舎の北側にだけ施工する図面になっており、南側、西側には描かれませんでした。理由はまだ判明していませんが、竣工直後の明治19年の写真をみると校舎の右(西)側は全体的に白く、腰壁がよく見えません。そのため北側にしか付けられなかったのではないかと推察しています。



明治19年 竣工直後の写真

4 壁の仕様を再調査

平成27年(2015)から平成31年に、壁を全て削ぎ落としての耐震補強工事を実施しました。腰壁は昭和の復原を元に北側にだけ、その見た目からなまこ壁風に塗りかえられています。しかし佐々木の仕様書では施工を北側に限定していないこと、模様は洋風の石目であったこと等の食い違いから、倉庫に仕舞われていた資料を再調査することとなりました。

明治30年から大正12年(1923)にかけての卒業写真が収納されています。全ての卒業写真に石目模様が写っており、明治32年の卒業写真では校舎の南側にも石目模様の腰壁があったことがわかりました。



写真右側の扉の上に屋根が無いことから校舎南側と特定。
写真左端に石目模様の腰壁が見える。(明治32年の卒業写真)

さらに竣工時の写真も画像処理ソフトで調光すると、西側の腰に石目模様のようなものが見えてきます。このことから、竣工から外壁が板張りへと改修されるまでの明治、大正時代には、校舎の東西南北全ての面に石目模様の腰壁があった、と考えられます。佐々木の設計通り、その姿は現在よりも重厚で堂々としていたのではないのでしょうか。



調光した竣工直後の写真



令和2年(2020)現在
校舎南側壁

5 おわりに

旧山辺学校校舎には調査が進んでいない資料がまだまだあります。いつか明治期の校舎がより正しい姿に復原できるよう、研究を進めていきたいと思えます。

(旧山辺学校校舎 学芸員 / 岡野真樹)

御柱展を終えて～令和3年の御柱～

馬場家住宅がある松本市内田地区には、毎年小正月頃に「御柱」と呼ばれる高さ10メートル程度の飾り柱を立て、1年の平穏無事を祈る行事が伝えられています。この行事は、諏訪神社系の神社で立てられる御柱とは異なり、道祖神の祭りといわれています。馬場家住宅では、御柱行事を紹介する企画展「松本平の御柱展」を開催しました。

御柱は、江戸時代中期には文献でその姿を確認できます。信濃を旅した菅江眞澄は「すわの海」の中で、天明4年(1784)に塩尻で現在の御柱と似た飾り柱が立てられている様子を描いています。現在、御柱は市内9カ所、塩尻市と安曇野市を含めた松本平では計28カ所で行われており、新年を



令和3年(2021)に立てられた一日市場東村の御柱

彩っています。企画展では、御柱の写真を一堂に展示し、地域ごとに異なる御柱の形や飾りの特徴を解説するとともに、色紙で鮮やかに飾られた姿をご覧いただきました。

今年の御柱は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止を余儀なくされた地区も多く

見られました。馬場家住宅でも、内田の御柱見学会を予定していましたが、これも中止となったため、ホームページの中で安曇野市内に立てられた御柱の様子を紹介しました。感想をうかがった来館者の中には、地元の御柱が中止のため、展示の御柱で雰囲気味わおうという方がいらっしやいました。子供の頃から毎年目にしてきた御柱が、このような形で中止になるとは思わなかったと話されていたのが印象的でした。



内田北花見の柱立て(平成31年(2019)撮影)

疫病や時代の変化など多くの困難に見舞われながらも、現在まで受け継がれてきた御柱。今年の御柱展では、この風景が先人たちの祈りが息づく姿であるだけでなく、その担い手たる地域の人々が長きにわたり守り伝えてきた姿であると改めて強く感じる機会になりました。今後も、御柱を知っていただくとともに、地域で紡いできた営みに思いを馳せてもらえるような展示をしていきたいと思えます。

(馬場家住宅 主事/宮下慶祐)

『松本の子どもの短歌・2020』

窪田空穂記念館では、毎年、松本市内の小・中・特別支援学校の児童生徒を対象に短歌作品を募集しています。応募作品は作品集にまとめて刊行されるとともに、優れた作品は表彰されます。

第18回目を迎えた今年度は、全体で4,674首の応募がありました。その中から最優秀賞4名、優秀賞20名、空穂会賞213名が選ばれました。

入賞作品は、「松本の子どもの短歌・2020」入賞作品展でご覧いただけます。



「松本の子どもの短歌・2020」入賞作品展

【会期】3月13日(土)～4月11日(日)

【会場】窪田空穂記念館・会議室

【料金】通常観覧料(作品展のみの観覧は無料)

〔最優秀作品〕

助走つけ地面をけて大ジャンプ

小鳥になって空高くとぶ

開智小学校5年 / 岩田悠真

もう秋だ月を見ながらもち食べた

月を食べてる感じがしたよ

鎌田小学校3年 / 小林泰大

心から笑えないのはピエロのよう

仮面をかぶった自分のせいだ

梓川中学校2年 / 草間星凜

シンシンと雪の降る中遊んでた

雪に埋もれて消えた手袋

松島中学校2年 / 杉本朔太郎

(窪田空穂記念館 館長/勝野恒彦)

第2回博物館まつり

松本市立博物館休館にあたり、さよならイベントとして「第2回博物館まつり」を開催します。休館前にぜひ博物館へお越しください。

日時 3月21日(日)午前9時30分～午後3時30分
会場 松本市立博物館・松本市歴史の里
料金 無料
当日は、会場以外の分館観覧料もすべて無料

come(calm) to matsumoto キャンペーン
施設無料開放のお知らせ

冬場の松本を満喫する“come(calm) to matsumoto キャンペーン”のひとつとして、長期休館に入る松本市立博物館と国宝旧開智学校校舎を下記期間無料開放します。

期間 3月1日(月)～3月31日(水)

松本市立博物館から

☎0263-32-0133

収蔵資料大公開展 第5弾「年中行事」

当館の資料を5回に分け一挙大公開する展覧会「収蔵資料大公開展」。最後の展示となる本展では、松本の土産である押絵雛と七夕人形を中心に、松本の年中行事を紹介します。

会期 3月21日(日)まで
会場 松本市立博物館 2階 特別展示室
料金 通常観覧料(大人200円、小・中学生100円)
come(calm) to matsumoto キャンペーン期間中は無料

ミニパネル展示「松本市立博物館のこれまで、そして、これから」

現建物において来館者のみなさまと紡いだ活動の記録と、新博物館に係る情報などをパネル展示にてお届けします。

会期 3月7日(日)まで
会場 松本市立博物館 1階 ロビー
料金 無料

松本民芸館から

☎0263-33-1569

企画展「アフリカとアジアの民芸」

アフリカとアジア各地の、素朴でありながらみる人の心をとらえる特徴ある民芸品を展示します。

会期 3月16日(火)～9月12日(日)
会場 松本民芸館
料金 通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)

松本の春、見つけた!2021

松本地方では、月遅れの4月3日にひな祭りを祝う風習があります。月遅れのひな祭りにあわせて、博物館が所蔵する松本伝統の押絵雛などのひな人形を展示します。



押絵雛展「町屋で楽しむひな祭り」

会場 はかり資料館 第1展示室・お休み処
会期 3月2日(火)～4月4日(日)
料金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)
問合せ はかり資料館 ☎36-1191

押絵雛展「古民家で楽しむひな祭り」

会場 馬場家住宅
会期 3月2日(火)～4月4日(日)
料金 通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)
問合せ 馬場家住宅 ☎85-5070

甘酒サービス

月遅れのひな祭りに合わせ、来館者に甘酒を振るまいます。

日時 4月3日(土)午前9時30分～なくなり次第終了
会場 馬場家住宅
料金 通常観覧料

時計博物館から

☎0263-36-0969

古時計ネジ巻き見学会

普段は開館前に時計技師が行っている古時計のネジ巻きや時刻合わせの様子を、解説をまじえながら公開します。

日時 3月13日(土)・14日(日)各日午前9時～10時
会場 時計博物館 常設展示室
料金 通常観覧料(大人310円、小・中学生150円)
定員 20名程度
申込み 3月6日(土)午前9時から電話にて時計博物館まで

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況によって急遽中止となる場合がございます。開催の可否等については、各館にお問い合わせください。

あとがき

ご案内のとおり、令和5年のリニューアルに向けて松本市立博物館が4月から休館します。自分の思い出を振り返ると、平成12年に見た兵馬俑の姿と平成17年の特別展「七夕と人形」で知った七夕人形が思い出されます。みなさまとともに歩んできた現市立博物館。あなたの心にはどんな博物館の風景が残っていますか？
馬場家住宅 宮下慶祐

あなたと博物館 No.233

発行年月日/令和3年3月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <http://www.matsu-haku.com/>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社